



OSAKA MUSEUMSって面白いかも！

「OSAKA MUSEUMS」には 80 名以上の学芸員が所属しています。
美術・歴史・自然・科学・・・それぞれの得意分野を持つ“学芸員”のことを知ってもらえるように、
学芸員が“いま”話したいことを皆さまにお届けするイベントを開催します。

視聴
方法

YouTube ライブにて
配信いたします。
(視聴無料／申込不要)
※当日会場でのご参加はできません。



開催
情報

大阪市博物館機構のホームページ
(<https://ocm.osaka/>) よりご確認ください。
※タイトル・時間・内容等は予告なく変更したり、状況により中止する場合があります。あらかじめご了承ください。



1
月
15
日
[主]

14：00-14：50
美術館と庭園

知念 理
大阪市立美術館
学芸員



慶沢園から大阪市立美術館を望む

お目当ての作品鑑賞のあと、ゆったりとお庭を散策する楽しみを知ってこそ美術館通(つう)というもの…。庭園は美術館の個性、魅力を印象づける、もうひとつの顔ともいえます。大阪市立美術館には、住友家の茶臼山本邸の庭園として明治時代末期に造営された「慶沢園(けいたくえん)」が長らく“隣接”しています。このお庭の沿革と来るべき未来を見ずしてTALK&THINKします。

15：00-15：50
加耶を歩く

寺井 誠
大阪歴史博物館 学芸員



松鶴洞古墳群 (韓国慶尚南道固城郡)

「加耶(かや)」は3～6世紀に朝鮮半島南東部の洛東江流域に勢力をもった複数の国の総称です。金官国(きんかんこく)(金官加耶)、大加耶などがあり、それぞれで立派な王墓を造り、きらびやかな副葬品を持っていました。また、古墳時代の日本と交流が盛んだったこともわかっています。今回は韓国の古墳や遺跡の風景などをご紹介しながら、加耶の歴史、日本との関係についてお話しします。

1
月
29
日
[主]

14：00-14：50
小森忍と中国陶磁

宮川 典子
大阪市立東洋陶磁美術館
学芸員



白磁花鳥文月字梅瓶
金時代・12世紀 住友グループ寄贈
(安宅コレクション)
写真：六田知弘

小森忍を知っていますか？1889(明治2)年に大阪で生まれた小森は、陶芸家であると同時に中国陶磁研究者でもありました。中国陶磁研究熱が世界的に高まった時代、彼は27歳で中国・大連に渡り古陶磁研究に勤しみながら、現地での制作に熱意を注ぎました。今回は大阪市立東洋陶磁美術館所蔵の中国陶磁の名品と合わせ、小森が再現を目指した中国陶磁の世界をご紹介します。

15：00-15：50
ファン・ゴッホの
星空の天文学的鑑賞

石坂 千春
大阪市立科学館 学芸員



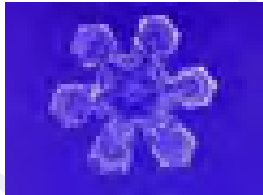
「星月夜」ニユーヨーク近代美術館蔵

ポスト印象派の画家ファン・ゴッホ(1853年3月30日～1890年7月29日)は、ある特別な想いをもって星空の絵を描きました。それらの絵は写実的でありながら、本当の星空をそのまま描いたわけではありません。「ローヌ川の星月夜」「星月夜」「糸杉と星の道(夜のプロヴァンスの田舎道)」の星空を天文学的視点から眺め、ゴッホの想いに迫ってみましょう。

1
月
16
日
[日]

14：00-14：50
雪の結晶
～雪は天から送られた手紙～

西岡 里織
大阪市立科学館 学芸員



雪の結晶 顕微鏡写真 撮影：小西啓之

空から降ってくる雪の結晶をご覧になったことはあるでしょうか。きれいな雪をつかまえることができれば、雪の結晶は肉眼で見ることが出来ます。二つとして同じ形はないと言われている雪の結晶。世界で初めて人工雪を作ることになった中谷宇吉郎博士は、「雪は天から送られた手紙である」という言葉を残しました。一体どういことなのか、美しい雪の結晶の写真とともにをご紹介します。

15：00-15：50
気象光学現象
～虹やその仲間～

長谷川 能三
大阪市立科学館 学芸員



二重の虹

雨上がりの空に虹を見つけると、なんだかうれしくなりますね。虹は空中にある水滴がプリズムの代わりとなって、太陽の光を色に分けて見える現象です。しかし、丸い水滴がどうしてプリズムの代わりになるのでしょうか？また、虹が逆さまになったような環天頂アークなど、虹のように空に見える現象は他にもいろいろあります。こういった現象があって、どうして見えるのでしょうか。

1
月
30
日
[日]

14：00-14：50
近世大坂周辺の村落
～喜連地域を素材に～

豆谷 浩之
大阪歴史博物館
学芸員



現在の喜連の町並み

現在は大阪市平野区に含まれている喜連(きれ)地域は、近世には、もとは一つの村でありながら、3つの村に分かれ、さらに幕府領と藩領に分かれるという複雑な支配関係のもとにありました。そのような状況下で、共通する地域の課題に取り組んできた人々の活動を中心に、近世都市・大坂周辺に所在した村落の特徴についてをご紹介します。

15：00-15：50
メタセコイアと
三木茂コレクション

西野 萌
大阪市立自然史博物館
学芸員



三木博士が採集・研究したメタセコイアの化石。大阪市立自然史博物館蔵。三木博士は、大坂府(現大阪府)三木町の出身で、1880年に大阪市立自然史博物館に指定された。三木博士は、大坂府(現大阪府)三木町の出身で、1880年に大阪市立自然史博物館に指定された。

メタセコイアはヒノキ科の落葉針葉樹で、「生きている化石」としても有名な樹木です。実は、メタセコイアは日本の古植物学者・三木博士によって発見されたことをご存じでしょうか。最初は絶滅したと思われていたメタセコイアが中国でひっそりと生き延びており、再び日本に帰って来るまでに様々なドラマがあったことを、当館に寄贈されているコレクションとともにをご紹介します。

1
月
22
日
[主]

14：00-14：50
大阪の水辺にやってきた
特定外来生物
「オオバナミズキンバイ」

横川 昌史
大阪市立自然史博物館 学芸員



オオバナミズキンバイ

特定外来生物に指定されているオオバナミズキンバイは中南米原産のアカバナ科の水生植物で、琵琶湖などで大繁殖して問題になっています。2014年には大阪でも発見され、その後、毎年新たな生育地が見つかっています。オオバナミズキンバイを例に、外来植物の何が課題で、どうしたらいいのか考えます。

15：00-15：50
大阪の福祉と小学校

飯田 直樹
大阪歴史博物館
学芸員



大阪市立露天幼稚園 昭和初年

近代大阪の福祉は施設の面で小学校に大きく依存していました。今回は、まず小学校と福祉との関係の歴史を方面委員制度(現民生委員制度)や警察が設立した夜学校などを素材にして振り返ります。次に、小学校依存体質を克服する思想・実践としてのセツルメント(隣保事業)に注目し、その特徴や可能性、限界などについて解説していきます。

2
月
19
日
[主]

14：00-14：50
ウィリアム・モリスと
日本におけるモリス受容

菅谷 富夫
大阪中之島美術館 館長



サセツクステア モリス受容
デザイン1895年頃 制作
1880～90年頃 彩色木
いぐさ

大阪中之島美術館では絵画・彫刻といった美術作品と並んで、近代デザインの作品を多数収集しています。ここでは近代デザインの父と呼ばれるウィリアム・モリスの活動と作品の特徴を概観し、彼のデザイン思想の一端に触れるとともに、富本憲吉、熊倉順一といった陶芸家らの活動を通して、その思想と実践が日本に持ち込まれてきた様子を振り返ります。

15：00-15：50
大阪歴史博物館と
刀剣刀装具展示
～刀剣ブームに至る道

内藤 直子
大阪歴史博物館 学芸員



特別展「幕閣の日本刀」展のルーツを辿る 関東事業の「鑑刀実演会」平成15年6月

大阪歴史博物館では、刀剣刀装具の美術史的な理解を深めるための展示を継続的に行ってきました。平成の末年以後、若年層や女性といった方々の刀剣への関心が高まり、刀剣ブームに至ったことは記憶に新しいところです。私が前任者から引き継いで以降現在に至るまでの30年弱の間、当館が行った取り組みとその影響を振り返り、人・モノ・社会の結節点としての博物館の役割を考えます。

1
月
23
日
[日]

14：00-14：50
植物の根ときのこの
不思議な関係

佐久間 大輔
大阪市立自然史博物館
学芸員



マツタケ 本館大蔵庫蔵

植物の根には様々な微生物が住み込んでいます。バクテリア、かび、きのこが入り込んでいますがすべてが病気の原因というわけではありません。根から糖分を分けてもらって生きているきのこもたくさんいます。あの美味しいキノコも、あの怖い毒キノコも樹木と仲良く暮らしています。このちょっと不思議な関係をご紹介します。ぜひとも不思議な関係をご紹介します。

15：00-15：50
砂に潜むハンター
「アリジゴク」

松本 吏樹郎
大阪市立自然史博物館
学芸員



コカスリウスバカゲロウの幼虫(アリジゴク)

名前はよく知られている「アリジゴク」、でも砂や土の中に潜んでいることもあって、その生活はまだ謎に包まれています。大阪を中心として日本で見られるアリジゴクについて、形態、採餌戦略、生活史、天敵、そして分類から進化史まで、様々な視点からアリジゴクに迫ります。最近の研究で見つかった新種もをご紹介します。

2
月
20
日
[日]

14：00-14：50
「大阪らしい日本画とは」
～近代大阪の日本画を読み解く

林野 雅人
大阪中之島美術館 学芸員



北野恒富《涼み》

大阪といえばよく「こてこて」と言われますが、日本画の場合はどうでしょうか。東京や京都とは異なる独自の文化を育んできた大阪を拠点に活躍した画家たちは、どのような絵を描いたのでしょうか。今回は当館のコレクションを中心に、明治以降の大阪でどのような日本画が受容されてきたのかをご紹介します。

15：00-15：50
中之島を掘る

岡村 勝行
大阪市文化財協会 学芸員



広島藩蔵屋敷跡

江戸時代、中之島・堂島一帯は日本全国の流通経済の中心。諸藩の大名家がこの地に設置した蔵屋敷は「天下の台所」、大坂を象徴する存在でした。発掘調査では、この30年間に約20の藩の蔵屋敷跡が確認されています。これまでどのようなことがわかったのか、わかってきたのか、大阪中之島美術館の地下から見つかった広島藩蔵屋敷跡を中心にお話しします。